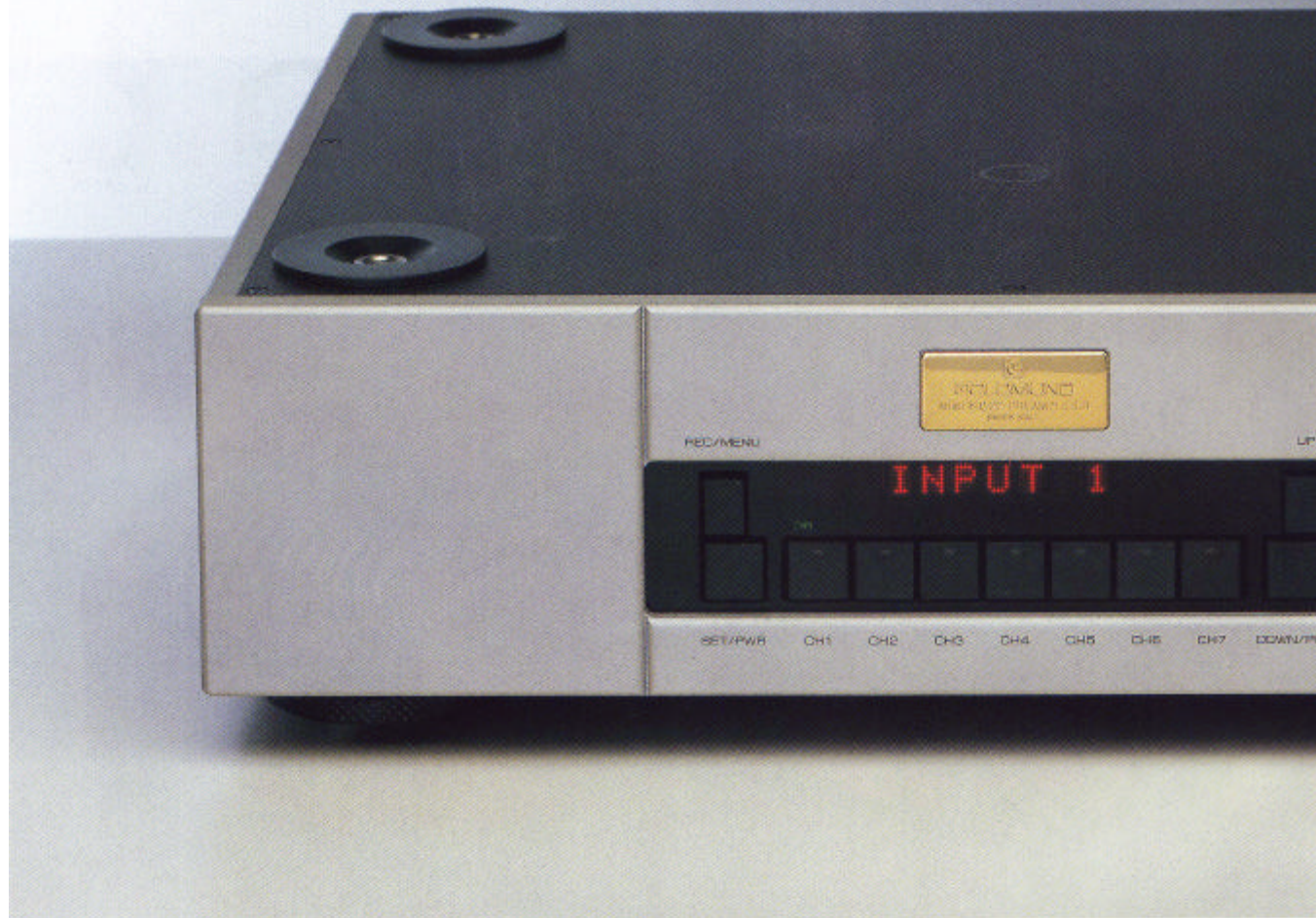


Stereo Sound GRAND PRIX 2002



フ コ フ ィ ー ル
スイスのゴールドムンドの最高級D/Aコンバーター。型番的には1996年発売のミメイシス20のアップグレード版という感じであるが、全面的なモデルチェンジ版と言ってよい。外観デザインこそ共通だが、カーボン製のトップパネルが新たに採用され、同社独自のメカニカルグラウンディングコンストラクションとあいまって筐体構造のS/Nがさらに向上しているという。電気的には時間的な位相ズレが起きないというALIZE3デジタルモジュールの搭載、アナログ、デジタル、ロジックなど回路毎に独立して給電する5独立電源などが特徴。デジタルアッテネーターを装備し、リモコン操作が可能。

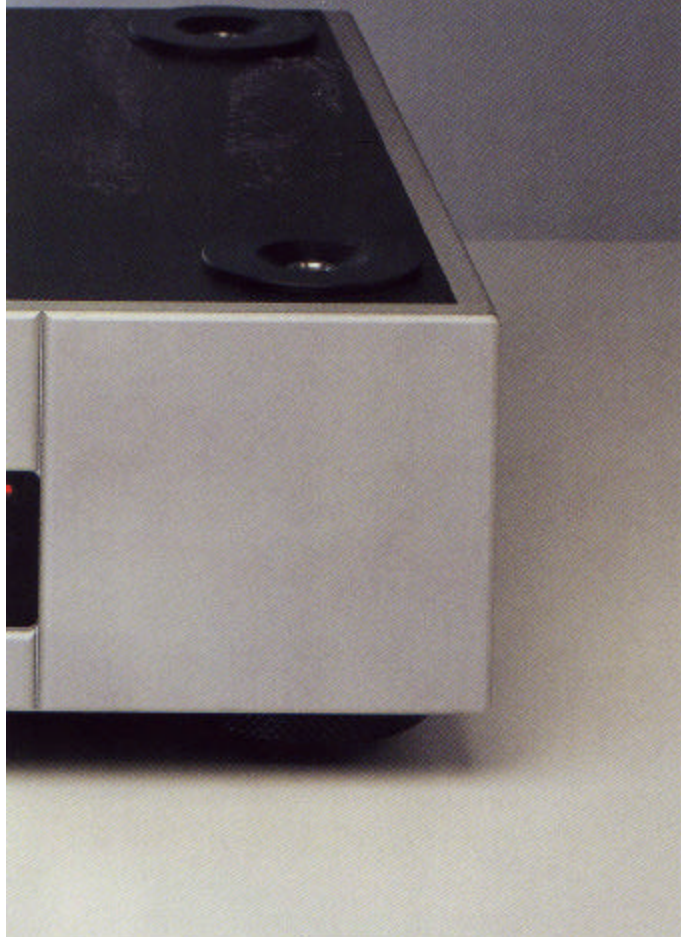
きるわけがないものね。そして、きちんと聴けるオーディオシステムを構築するまでが大変だったと言っていた。まったくその通りだと思う。ちゃんとしたリスニング環境を持つということとは、製音開発にとってある意味もつとも大切なことじゃないですか。

傳 そのシステムでパーツの違い、コンストラクションの違いなど、あらゆることをシステマティックに聴く、と。そこに凄いノウハウがあるんじゃないか。

菅野 冒頭、価格が高いつて話になりましたけれど、たしかに開発コストはかかっているのかもしれない。パーツも高いのかもしれない。でも、そういうものじゃないと思う。

これは「音」という無形のものを買うんですよ。出てきた音にどれだけの価値を認めるか……それは聴く人自身にかかっているわけですからね。

D/A Converter
ゴールドムンド
Mimesis 20ME
¥4,300,000



●デジタル入力:同軸7系統(各端子RCA/XLR選択可能)●デジタル出力:同軸2系統(RCA2)、バランス2系統(XLR2)●アナログ出力:アンバランス3系統(RCA3)、バランス1系統(XLR)●寸法/重量:W440×H125×D395mm/20kg●備考:バランス出力HOT=2番ピン●問合せ先:ステラヴォックスジャパン ㈱ ☎03(3958)9333

鳥肌が立つほどの「いい音」がする いまもつとも旬なD/Aコンバーター

柳沢 ゴールドムンド/ミメシス20MEは、D/Aコンバーターとしては極めて高価な製品ですけれど……。

菅野 そうねえ。だけどこの製品に僕はショックをうけたな。D/Aコンバーターでこれほど音が変わるのか、そしてこれほどいい音になるのか、と驚いたわけ。

柳沢 まったくそうですね。で、どんないい音なのかと聞かれると、これが説明がとて難しい。

三浦 こういう音を聴くと、自分の表現能力

のなさを嘆いてしまいます。とにかくびつくりするようないい音。

菅野 自然な音触を聴かせますね。

傳 この音を聴いたとき鳥肌が立ちましたよ。

菅野 どうしてこんな音ができるんですかね？

上杉 このモデルの中を見えますと、大きなモジュールがふたつ、まず目に入りますね。ひとつはデジタル処理基板、もうひとつはアナログ処理基板、とのことで、メーカーの説明では、これらのうち、アナログ領域での信号処理が一番大切ということでしたね。

菅野 そう、そこまではわかるんだ(笑)。とはいえ、ここまでの音が出ちやうことがとにかく不思議だよな。

三浦 僕が現在D/Aコンバーターに望みたいことは、CDフォーマットは無論のこと、SACDなどの上位フォーマットへの適応性なんです。その意味からすると、このミメシス20MEというのは複雑な存在になってしまっているよ。事実上CDしか聴けませんから。

現状上位フォーマット対応が必要かどうかは別として、発展性が欲しいんです。とはいえ、これでCDを聴くと「CDって凄い！」と思ってしまうから、オーディオって奥が深いものですよ……。

傳 ゴールドムンドって「旬」じゃないですか。春の山菜、秋のキノコ……そんな新鮮さと美味しさと香りがある。で、その旬がもう10年以上続いていて、最近ますます旬ですよ。凄いメーカーですね。

菅野 やっぱり主宰者のミッシェル・レヴァシオンが凄いということなのでしょう。

柳沢 彼に「どうやって音を決めるのか」と尋ねると、かつては「音なんか聴かない。スペックがすべてだ」などとうそぶいていたけど、最近はいやじつは徹底的に聴く。さんざん聴くんだと白状するようになりましたね(笑)。

菅野 聴かなければいいオーディオ製品がで